

AUTOMATIC MEALTICKET VENDING MACHINE

Patent number: JP52014495
Publication date: 1977-02-03
Inventor: KOSEKI SEIETSU
Applicant: TAKAMISAWA CYBERNETICS
Classification:
- International: G07F5/10; G07F5/00; (IPC1-7): G07F5/10
- European:
Application number: JP19750089667 19750724
Priority number(s): JP19750089667 19750724

[Report a data error here](#)

Abstract of JP52014495

PURPOSE:A device which suspends meal ticket sales upon the completion of scheduled sale of meal tickets for the food stuff stored by providing a preset device which sets sales amount by article.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

公開特許公報

⑪特開昭 52-14495

⑬公開日 昭52(1977)2.3

⑭特願昭 50-89667

⑮出願日 昭50(1975)7.24

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

7629 25

⑫日本分類

115 E0

⑯ Int.Cl²

G07F 5/10

特許長官 斎藤英雄

1.発明の名称

食券自動販売機

2.発明者

東京都新宿区西新宿1丁目3番14号
 平和ビル 株式会社 高見沢サイバネティックス内
 小 開 清 悅

3.特許出願人

郵便番号: 160 TEL(543)5181
 東京都新宿区西新宿1丁目3番14号 平和ビル
 株式会社 高見沢サイバネティックス
 代表者 高見沢誠夫

4.添附書類の目録

- | | |
|---------|----|
| (1)明細書 | 1通 |
| (2)図面 | 1通 |
| (3)願書副本 | 1通 |

50 089667 方式(小川)

明細書

1.発明の名称

食券自動販売機

2.特許請求の範囲

接客面に貨幣投入口、食券受取口及び食券との押釦とを有し、その貨幣投入口から貨幣が投入されて押釦が操作されたときにその押釦に対応する食券を販売するようにした自動販売機において、食券の販売数を料理の種類ごとにプリセットするプリセット装置を接続または有し食券の販売数がそのプリセット装置にプリセットした数に至ったときにその料理の食券を販売できないように制御回路を構成したことを特徴とする自動販売機。

3.発明の詳細な説明

本発明は食券自動販売機に関する。普通、食券自動販売機は接客面に貨幣投入口と受取口と押釦が設けられ、貨幣が投入されて所定の押釦が押されるとその押釦で指定された料理の食券を販売する。この場合、たゞ単に食券を販売するだけで、その日、料理の原料を何食分仕入れたかに関係な

く食券を販売する。そのため従来は、調理場に原料がなくなると自動販売機の接客面のその原料のなくなった押釦のところに売切れ表示板を引っ掛け、あるいはスイッチ切り換えて売切れ表示し、その料理が売切れであることを表示している。このため、原料がなくなるごとにその原料のなくなった料理の食券を販売する押釦のところに売切れ表示板を引っ掛けるかあるいは切換スイッチを操作しなければならないため、面倒ばかりか、食券が販売されて作られていない料理が何食分あるのかはっきりしないため、実際に販売できる料理数よりも早目に売切れ表示する必要があって、そのタイミングがむづかしい。

そこで、本発明は仕入れ原料分だけ食券を販売したら自動的にその食券を販売しないようにすることを目的とする。

以下、本発明を図面に示す実施例にもとづき説明する。1は食券自動販売機の制御回路で、これは既知であるので詳細の説明は省く。2は料理の種類ごとの食券の販売枚数をカウントする累計カ

ウンター、3は料理の種類ごとのカウンターを有するプリセットカウンターで、このカウンター3にはその日、仕入れた原料で作れる料理数を料理の種類ごとにセットする個数設定装置4が接続される。自動販売機で食券が販売されると、制御回路1からプリセットカウンター3に信号が入力されて、個数設定装置4のその食券に対応するカウンターにセットされた販売個数から1個、減算される。食券が販売されつづけて個数設定装置4に設定された数に等しくなるとプリセットカウンター3は制御回路1に販売中止指令信号を送り、その食券を販売できないようにすると共に売切れ表示し、顧客にそれを知らせる。5は料理すべき数を料理の種類ごとに表示する表示器で、調理場に設置される。料理が作られてその料理が顧客に手渡されるとリセット装置6の操作にもとづいてその出された個数分だけ減算されて表示される。更にこの表示器5はプリセットカウンター3から販売中止指令信号が出力されたときにはそれを表示して調理員にその料理が売切れ表示になっていること

とを知らせる。上記の制御回路1、プリセットカウンター3は自動販売機に設けられ、表示器5は調理場に設けられるが、累計カウンター2と個数設定装置4は自動販売機に設けても、あるいは調理場に設けててもよい。

上記の要部を第2図にもとづき更に詳しく説明する。図面は1つの料理の一式のみを示しているが、実際は複数種類の料理に対し1つの料理につき數桁を必要とする。図中、17はデジタルスイッチで、このデジタルスイッチ17によって販売数がセットされる。7...はアンドゲート、8はプリセットカウンター、9は押鈎が押されたときに開閉する選択スイッチ、10はアンド回路、11はフリップ、フロップである。前記デジタルスイッチ17にセットされた販売数を表す信号は自動販売機が発売開始されたときに発せられる信号12にもとづいてプリセットカウンター8に入力され、その後にプリセット信号13にもとづいてプリセットカウンター8に記憶され、そこからアンド回路10に入力される。この状態で、自動

販売機に貨幣が投入され、その貨幣金額内のいずれかの押鈎が操作されると、その押鈎の選択スイッチ9が閉成されてアンド回路10を開き、フリップフロップ11をセットし、販売信号14を送り出す。この販売信号14にもとづいて押鈎に対応した食券を自動販売機では販売し、ダウン信号15をプリセットカウンター8に入力してそのプリセットカウンター8から減算し、その減算した状態の信号をプリセットカウンター8からアンド回路10に送る。食券を販売した後、フリップフロップ11をリセットして販売準備状態にする。この後、貨幣が投入されて押鈎が押されて食券が販売されるごとに上記の動作がくり返えされる。そして、プリセットカウンター8に記憶されている内容が零になるとプリセットカウンター8からの信号は無意信号となり、選択スイッチが閉成されたとしてもアンド回路10は閉じたままで、販売信号14を出力しなくなり、この回路に関連の食券を販売できない。またプリセットカウンター8からの信号にもとづいて、売切れ用ランプ16を点灯

させかつ、押鈎のランプが点灯しないようとする。

なお、停電時の対策としては電源にバッテリーを組み込んでも、あるいはプリセットカウンターにそれに対処し得るもの要用いとよい。

また、食券としては紙製、プラスチック製その他いずれでもよい。

以上の説明から明らかのように、本発明によると、料理の原料購入量をセットしておき、食券の販売数が、そのセット数に至ると自動的にその食券を販売しなくなり、食堂の合理化につながる。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明に係る食券自動販売機の1実施例を示すもので、第1図はそのプロック図、第2図はその要部の回路図である。

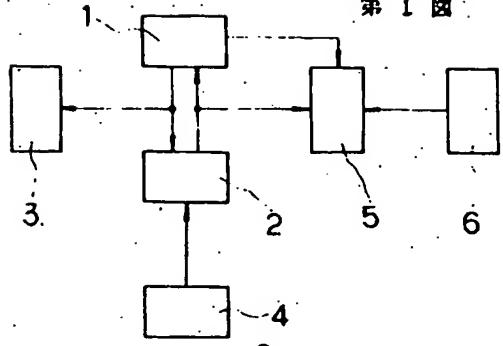
図 中。

- 1: 食券自動販売機の制御回路、2: 累計カウンター、
- 3: プリセットカウンター、4: 個数設定装置、5: 表示器、
- 6: リセット装置。

特許出願人

株式会社 高見沢サイバネットィクス

第1図



第2図

